

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p>【海のきれいな一色町にするために】 ここ数年アサリの漁獲高が年々減ってきています。アサリは観光資源としても重要です。一色町の特産物の一つであるアサリをはじめとする海産物が、海洋汚染、特に赤潮の影響で衰退してしまうのではないかと心配しています。その海洋汚染の原因の一つにプラスチックごみがあることは世界的にも話題になっています。海の環境を守るためには、陸上でのごみ問題も同時に考えていかなければならないと考えます。</p>	<p>【質問1】 一色地内には、産業廃棄物処分場問題があると聞いています。土壌や海に影響が出るとは思います。問題の概要とその対策がどこまで進んでいるのか教えてください。</p>	<p>【市長】 問題となっている場所は、以前、民間会社が最終処分場として使っていた場所になります。処分場を設置した会社は、ごみの埋め立てが終了すると、処分場内部に溜まった汚水のろ過作業などを行う必要がありますが、その会社は汚水処理を途中でやめてしまい、最後にはその会社は解散してしまいました。現在は管理されないまま放置されている状態となっています。それが生田地区にあります。その土地については現在、市や県が放置された処分場周辺で、水路の水質や底質土壌検査などを行い、特に安全性に問題はないと判断していますが、今後もしっかり監視していきたいと考えています。また、大きな産業廃棄物最終処分場を放置された処分場を含めた一帯の場所に作るという計画があります。工業系の産業活動をすれば当然ごみが出ます。全部リサイクル出来れば一番いいと思いますが、廃棄するごみが一定量出るのは事実で、それを埋める処分場を日本のどこかには作る必要があると思います。しかし、それを生田地区にという話になると、市民が生活している実情から考えれば、それは違うなと思います。計画では、日本で一番大きいと思われる規模の処分場が建設されるかもしれないという状況です。40年～50年程度埋め続けるくらい大規模な処分場です。この問題に対し西尾市としては建設反対の姿勢です。理由の一つとしては、一色中学校から200～300mくらいしか離れていない場所で、仮に処分場ができると1日何百台ものトラックが周辺を往来する可能性があります。交通安全の問題や悪臭・騒音の恐れもあります。子どもたちが勉強する場所に近いところで悪影響が出る可能性はあります。3年間で中学校は卒業してしまうかもしれませんが、本当に真剣に考えて欲しい問題です。</p>	<p>環境保全課</p>

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p>【提案】 若者世代が魚やアサリなど地元の海産物をあまり食べていないことが、この学生議会の勉強をしていてわかりました。海の幸に恵まれたまちで暮らしている私たちが、地元で捕れた新鮮な海産物を食べることで、海の環境問題に興味をもってもらいたいです。イベントを開催した時などを活用し、ごみの分別や回収に関する啓発、また、不法投棄による海洋汚染の深刻な問題など継続的に周知することで、まちをあげた美化活動が活性化すると考えます。また、プラスチックごみを減らすために、簡単に取り組むことができる一つとして、買い物に行った時にエコバックを利用することです。最近では、エコバック利用の意識が当たり前になっています。買い物をすると、肉や魚のバック売り、冷凍食品などどれも食品については、とても過剰包装だと感じます。お茶や水もすべてペットボトル入りで、飲みきりサイズで便利な面もありますが、夏場は家に空いたペットボトルがたくさんたまってしまいます。水などは、賞味期限の問題もありますが、ペットボトルではなく、ポリタンクでの販売を推奨すれば、災害時の給水でも役に立つと思います。 環境問題は、個人の意識ひとつで実行できるので、中学生でも取り組むことができると考えています。プラスチックトレイやペットボトルの回収は、家族と一緒に取り組むことができます。即効性はありませんが、市民全体で継続的にできる活動であると同時に、ひとつひとつの取組が、個人の意識を高める事につながって欲しいと思います。それを支援する方法としては、回収場所を増やしたり、商店街で使用できる割引券と交換できたりすれば、まちの消費も増え、より効果が上がると考えます。</p>	<p>【左記：質問1の回答の続き】</p>	<p>【市長】 一色地区はウナギやアサリなど漁業が盛んに行われている地域です。有害物質が海に流れ出なかったとしても、漁業を営む直ぐ近くに産業ごみの埋立処分場があるとなれば、その近くで獲れたアサリや魚などは正直食べたくないと思ってしまうのではないのでしょうか。漁業従事者にとっては、処分場ができたがゆえに評判が悪くなり、自分たちが獲ったものが売れなくなる可能性があり、生計が立てれない状況になることが推測されます。 南海トラフ地震が起きた場合、西尾市は県内で一番大きな被害が出ると言われていています。最終処分場建設計画地は、地盤が緩く、産業廃棄物を埋め立てた場合、地震が発生し津波が押し寄せれば、埋め立てたごみが三河湾に流れる可能性も否定できません。 確かに人間が生産活動をしていくためには、処分場施設が必要なことはわかりますが、建設計画地は皆さんの生活の場です。市長に就任してから反対の姿勢を示しています。市民一人一人がこの問題について理解を深め、反対に対する共感を広めていただければと思います。 市では、今年度、問題に対する理解を深め、啓発するために動画を作成しました。建設された場合のメリット、デメリットは何か。雇用面や税収面ではメリットがあるかもしれませんが、悪影響を受ける方が圧倒的に多く、市民の皆さんに正しく理解していただくためにわかりやすく解説した動画です。YouTubeでも見ることができます。「西尾市産廃問題」で検索してください。</p>	<p>環境保全課</p>
	<p>【質問2】 プラスチックごみが原因で魚や海の生き物に被害が出ていることがニュースになっていました。マクドナルドやスターバックスコーヒーで紙ストローが採用されていくことを聞きました。最近、チョコレート菓子の包装がプラスチック袋から紙袋に変わりました。このような問題を子どもの頃から学習することでごみに対する意識が変わると思いますが、市民を対象とした環境問題についての講座などは行っていますか。</p>	<p>【市長】 学校向けとしては「レスキュー530」があります。環境事業所職員が学校に出向き、実際にごみの分別を体験したり、ごみ収集車の説明をする企画です。その他、生涯学習出前講座を開講しています。広く環境について勉強してもらうための講座です。出前講座の申込み窓口は生涯学習課です。また、イベントでは、12月第1日曜日に、毎年、「環境ウエーブ21」というイベントを開催しています。環境問題について、楽しみながら理解を深めることができる機会です。</p>	<p>ごみ減量課</p>